

2006年度の放射線検査室のスタッフは、診療放射線技師4名（3月は3名）であった。

主な業務は一般撮影、造影透視、CT、MRI、骨密度測定、乳房撮影で、前年度に引き続き宇城市MRI脳検診を受け入れた。また病院機能評価（Ver.5）受審に向けた放射線業務の再構築にも取り組んだ。

1. 放射線業務の見直し

病院機能評価受審に伴い放射線業務の見直しを行った。各種書類の作成及び整備、検査室の環境整備、他部署との連携事項の確認などが主な課題として挙げたが、受審日までには、スタッフが協力し合い問題点を改善することができ、当日は厳しい指摘もなく無事に終えることができた。

病院機能評価を受審することにより、スタッフ共通の目標設定ができ実践につなげることができた。なによりも各部門の枠を超えた取り組みにより一人一人の意識が高まり、病院全体に一体感が生まれたことと、知識・技術の再確認をできたことが受審の大きな収穫であった。

2. 能力向上

2006年度も能力向上のために、定期的に部内勉強会を開催した。また院内外の研修会等へも積極的に参加し、知識や技術の習得に努めた。院外の研修会へ参加した場合は伝達講習の開催を徹底し情報の共有にも努めた。

特に部内勉強会は基礎的内容の充実を図り、新人の早期実戦力化、早期救急対応ができるように指導した。他スタッフも基本的事項を見直すことで個人の能力を再確認することができた。

さらに循環器症例検討会や術前検討会に参加して、臨床知識やCT・MRIの撮影技術の向上が図られた。

3. 宇城市MRI脳検診

2006年度は約1,000名の受診者を受け入れた。安全かつ精度の高い検査の提供を目的に、検査前にチェックリストと問診票で二重のチェックを徹底し事故防止に努め、問題なく検診業務を遂行することができた。

来年度も引き続き検診を受け入れ、機器の有効利用に役立っていききたいと思う。

4. 遠隔画像診断

例年通り、済生会熊本病院画像診断センターの強力なバッ

クアップの下に順調に行うことができた、また遠隔診断対象症例を通して画像診断力の向上に努めた。

2007年度には、みすみ病院・熊本病院間に専用回線が設けられ、画像転送の高速化が期待できる。救急時の迅速なトリアージに貢献できると考える。

来年度も地域医療に貢献するため、スタッフ一丸となって飛躍していききたいと思う。